

# 日本海沿岸諸都市の観光振興に関する考察

(本論文は2004年10月2日、環日本海学会第10回全国大会で発表予定のものである。)

東京女学館大学国際教養学部教授  
正会員 小浪博英

## 1. 環日本海地域の観光

日本海の面積は約130万平方キロメートルであるので、これを長方形にすると、短辺が1000キロメートル、長辺が1300キロメートルということになる。これは相当に広いということである。その日本海に面して日本の弧状列島が横たわり、その海岸沿いの延長は稚内市から五島市まで、直線で約2000キロメートル、60市(合併により数字は変わる)が存在する。単純に距離を市の数で割れば、約33キロメートルとなる。これは東海道53次と比べると約3倍の間隔が空いていることになる。換言すれば、これらの都市は東海道のような横の線形的つながりではなく、多分海路を利用した点的つながりであったのであろう。

本論では60都市のうちから、近接しているものを除外して、図1に示す41市を対象に主としてホームページによって分析を試みた。

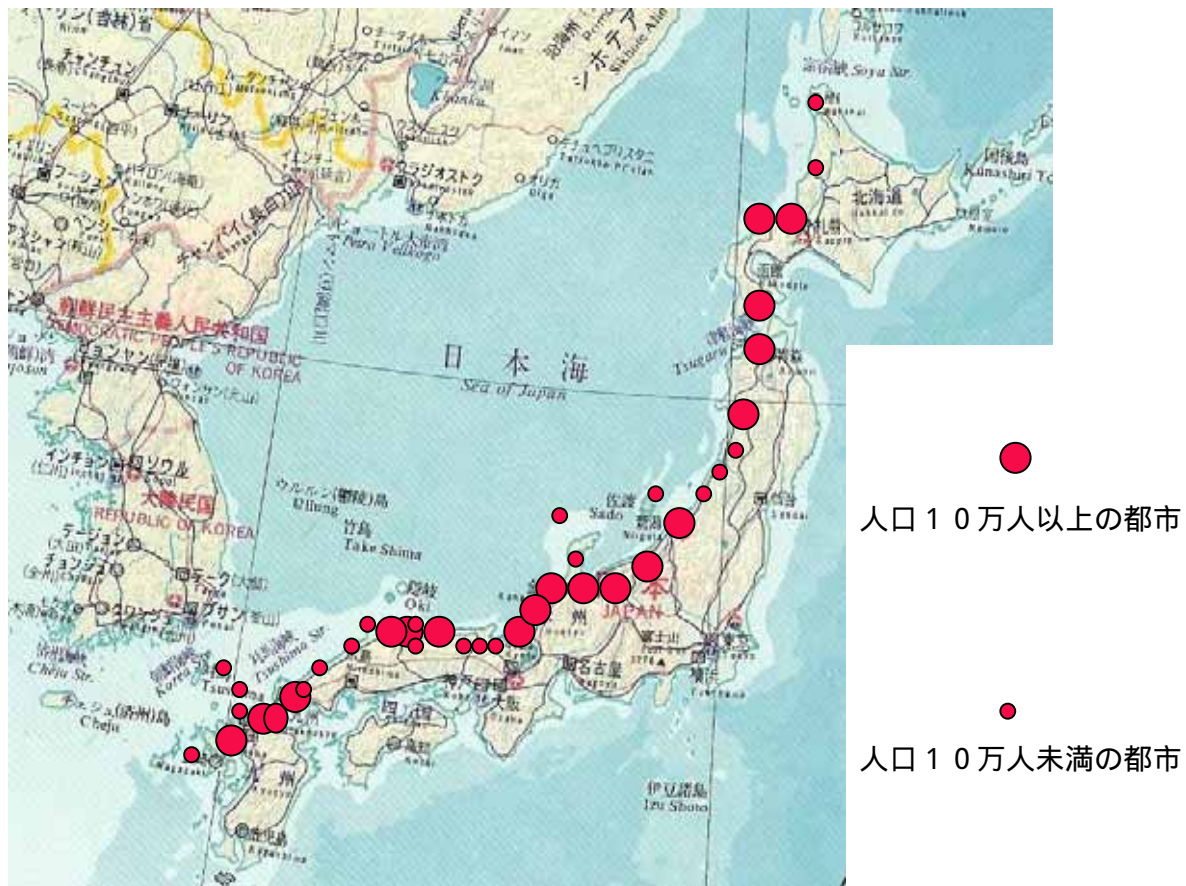


図1 分析対象都市

## 2. 対象都市の概要

これら対象都市について、それぞれの市役所公式ホームページおよび観光協会のホームページから調べてみると表1となる。

表1 ホームページから見た対象都市の概要 (人口はH12国調またはH16住民基本台帳)

都市名	人口	主な観光資源
稚内市	42,542	最北端の町としてサハリンとの交流、海産物料理、四季の自然。サハリン50万人との交流は有望
留萌市	27,806	札幌からJRで約2時間、重要港湾留萌港がある。特産はニシンとカズノ

		コ。黄金岬の夕日は有名。
札幌市	1,867,310	1972年、冬季オリンピックの開催と同時に政令都市に移行。何でもそろそろ大都市で、特に北海道大学、札幌雪祭り、サッポロビール園などが有名。
小樽市	145,957	1865年江戸幕府開村、北海道の海の玄関として天皇陛下も利用した日本海交通の北の拠点。小樽運河、天狗山スキー場、ガラス工芸、石原裕次郎記念館など観光資源に恵まれ年間800万人が来訪。
函館市	283,569	1854年ペリー来航、1855年下田に次いで開港。1859年、横浜、長崎と共にアメリカ、オランダ、ロシア、フランス、イギリスとの間の貿易開始。1869年蝦夷開拓使設置。1934年、1945年に市街地の大半焼失。以後南北海道との拠点として発展。観光資源は五稜郭、函館山、文学館、青函連絡船摩周丸、湯の川温泉、赤レンガ倉庫群など多数。
青森市	296,727	1871年、県庁が弘前から青森に移ったのを契機に交通の要衝として栄えたが、1910年、1945年と大火により市街地を消失。三内丸山遺跡、青函連絡船八甲田丸、ねぶた祭り、棟方志功記念館、浅虫温泉、八甲田山等の観光資源は豊富。
秋田市	318,112	1604年に佐竹義宣公が久保田城に入城した時から数えて400年。環日本海における文化・経済の拠点都市。秋田竿灯祭り、千秋公園桜祭り・つつじ祭りなどのほか、やはり秋田美人と「しょつつるよ」「きりたんぼ」などの秋田料理、秋田地酒であろう。
酒田市	99,511	西回り航路の拠点として江戸初期から繁栄。1976年の大火により市街地の多くを焼失。観光資源としては本間家関係の各種文化財、庄内平野の米を蓄えていた山居倉庫「夢の倶楽」など。船で90分のところに旅館と民宿を備えた「飛島」がある。
鶴岡市	99,948	江戸時代約240年の間、徳川家譜代大名の酒井家が治める庄内藩14万石の城下町。出羽庄内国際村は平成6年にオープン、アマゾン民族館でアンデス文明展～インカとその末裔～などを開催。庄内南部医療案内図は鶴岡市、羽黒町、櫛引町、藤島町、朝日村、三川町、温海町の医院、歯科医院を地図にのせ、英語、中国語、ハングルで標記。市内には温泉の他、洋風建築の秀作大宝館などの文明開花期の洋風建築物、高山樗牛胸像、文学碑等、みどころが多い。
村上市	31,755	妃殿下稚子様のふるさと。村上城の復原や、武家屋敷の保存・整備を進めている。瀬波温泉は、日本海に沈む夕日、雪景色の中の温泉、日本海の海の幸、特に冬場の鮭、甘エビ、カニ、ブリなどと地酒、コシヒカリのご飯は絶品。
新潟市	518,133	長岡城下であった新潟は洪水が多く発展が遅れていたが、江戸時代には日本海海運の拠点として賑わい、港湾都市としての基盤が整備された。1858年の修好通商条約で横浜・神戸などと共に開港5港の一つに指定され、1868年に開港した本州日本海側最大の都市。国際交流が盛んで、ガルベストーン(米国)、ハバロフスク(ロシア)、ハルビン(中国)、ウラジオストク(ロシア)と姉妹都市提携の他、朝鮮民主主義人民共和国、大韓民国の双方と友好交流関係を持っている。1955年の新潟大火、1964年の新潟地震と大災害に見舞われたが復興。新潟空港からはイルクーツク、西安、グアム等海外8都市へ週21便の定期便が飛んでいる。歴史的観光資源は長岡市、新発田市に多い。
佐渡市	69,965	2004年3月、1市7町2村が大合併して、佐渡島全体が佐渡市となった。金山と流刑の地として有名。13世紀末、日蓮上人もここに流されたことがある。日本海の荒波により形成された奇岩、温泉、佐渡料理、標高1,000m近い高原、古くからの歴史等、観光資源豊富。空き家の賃貸・売買を都市の人に対して斡旋している。トキの保全をしている。
上越市	135,516	上杉謙信ゆかりの春日山城、徳川家ゆかりの高田城、親鸞聖人ゆかりの地など、歴史的観光資源が多い。古くは北陸本線、信越本線、直江津港の結節点として旅客、貨物の拠点であったが、新潟、長野が新幹線で東

		京に直結し、富山、金沢が米原經由東海道新幹線に結ばれ、現在では交通不便地となってしまった。
富山市	320,966	200万円を限度として国際会議等の支援、城址公園の桜と遊覧船、チンドンコンクール、風の盆、とやま土人形、近くに宇奈月温泉や黒部、立山の自然など、他の地域では見られないユニークな観光資源がある。海と山が同時に楽しめる。富山湾の屋気楼も有名。10年くらい後には長野新幹線がフル規格で富山まで延伸され、富山・東京間は2時間10分になることが期待されている。
高岡市	172,957	「万葉集」の代表的歌人であり編者ともされる大伴家持は、今から約1,250年前、越中国守としてこの高岡の地に約5年間在任し、この地の美しい風物を詩情豊かに詠んだ「越中万葉」を残した。国宝瑞龍寺、土蔵づくり、赤煉瓦の銀行など多くの歴史的観光資源を有する。
輪島市	27,208	古くからの海上交通の要衝で大陸交流の玄関でもあった。2003年能登空港開港。能登半島全体では温泉、輪島塗、自然、お祭りなど多くの観光資源がある。
七尾市	23,135	能登半島の中心都市。前田利家の築城になる小丸山城と城下のまちづくりは秀逸。和倉温泉、県立美術館などがある。
金沢市	457,929	加賀百万石の中心都市。京都の文化を色濃く残している。兼六園、城址公園、武家屋敷などの歴史的資源の他、美術館、ショッピングセンター、飲食店など近代的都市機能が備わっている。6月の百万石祭りの行列は圧巻。近くに加賀温泉郷がある。
小松市	109,800	自衛隊と供用の小松空港からソウルへ週4便、ルクセンブルクへの貨物定期便が週5便。金沢市へ30km、福井市へ50km、北陸の玄関として重要な位置にある。
福井市	252,274	関西に近いため古くから開けていたが、第二次大戦と昭和23年の大地震で歴史的資産の多くを失った。県庁所在都市ではあるが人口は減少気味である。近郊に芦原温泉や東尋坊がある。
敦賀市	69,201	関西に一番近い北陸の町で、9世紀に渤海国使節団を迎えた天然の良港、敦賀港を持つ。敦賀港は日本海フェリーのほか古くから対岸貿易の基地であり、大陸への窓口であった。常宮神社には国宝朝鮮鐘がある。
舞鶴市	93,632	敦賀と並ぶ天然の良港、舞鶴港を持つ。海上自衛隊の日本海全体の基地であり、引揚げ船輿安丸の受入れ港。軍都の東舞鶴と商都西舞鶴に分かれている。東郷平八郎はポーツマスで食べたビーフシチューの味が忘れられず、当地で艦上食として作らせたのが、「肉じゃが」の始まり。日本海フェリーの基地でもある。
豊岡市	46,651	但馬地方の中心都市。城之崎温泉から10kmしかなく、コウノトリを野性に返す公園、玄武洞、但馬牛などが主な観光資源。
鳥取市	150,439	江戸初期、池田光政公により城下が概成した。鳥取砂丘、明治末期に建築家片山東熊博士の設計で鳥取城址に建てられた仁風閣、神話で有名な白兎海岸などが観光資源。
米子市	141,321	隣接する境港市、島根県側の松江市、安来市と共に日本海側の拠点を形成。伯耆大山、皆生温泉などがある。
境港市	37,665	境港は我が国屈指の漁業基地で、紅ズワイガニの水揚げは日本一、その他、サバ、スルメイカ、マグロ、ブリ、イワシなどの水揚げが多い。
松江市	148,632	松江城、堀川、県立美術館、小泉八雲記念館など多くの観光客を引きつけている。近くに玉造温泉がある。
安来市	30,520	安来節の「どじょうすくい」で有名。世界に冠たる最高級特殊鋼ヤスキ八カネの産地。
出雲市	88,920	隣接の大社町、佐田町などと共に我が国最古の歴史を誇る。各種の神話のふるさつであるほか、銅剣、銅鐸、銅矛などが同一場所から発掘され、大和朝廷の中心であった可能性を秘める。石見銀山に隣接。
浜田市	46,343	出雲と並んで歴史が古く、各種の歴史的文化財の他、岩見神楽、天然記念物豊ヶ浦などが楽しめる。1991年高速自動車国道浜田道開通、1993

		年益田市に萩・石見空港開港、2001年国際コンテナ航路開設など、交通網が整ってきた。
益田市	51,074	柿本人麿および雪舟の終焉の地として関連資料が充実。萩・岩見空港所在地。ただし、萩まで約60km、浜田まで約40km。
萩市	46,403	毛利輝元36万石の城下町。明治維新胎動の地として、吉田松陰をはじめ木戸孝允、高杉晋作、伊藤博文など多くの逸材を輩出。天災や戦災を免れたため現在もなお萩城跡や武家屋敷、町家、古刹等の江戸時代のまちなみ、歴史的景観を数多く残している。
下関市	252,389	関門海峡に面する海の大要衝。関釜フェリーがある。観光資源は関門海峡、巖流島、ふく料理など多数。
北九州市	1,001,397	小倉城、松本清張記念館などのほか、火野葦平、本居宣長、高浜虚子、中村汀女、林芙美子、森鷗外、竹久夢二、野口雨情、北原白秋、若山牧水等、多くの文学碑がある。沖合3kmの所に新北九州空港が建設中で、2006年の開港を目指している。これができる都心から30分で空港に行けるようになる。
福岡市	1,380,790	わが国の主要都市（大阪、東京、札幌）までの距離と、東アジアの主要都市（釜山、ソウル、上海、北京、台北など）までの距離とがほぼ同じ範囲内にあるため、国際線の定期航空路線も多く、韓国、中国をはじめ、アジア諸国との交流には最適の位置。博多港は韓国・釜山港との間にフェリー、ジェットfoilなど複数の定期航路があり、平成15年の旅客数は50万人を越え、平成5年の旅客数の5倍に増加する急伸びぶりです。博多港は、日本一の乗降人員を誇る国際旅客港。
唐津市	78,945	博多から地下鉄が直結し、通勤可能となった。唐津焼、唐津くんち、虹ノ松原等観光資源は豊富。
佐世保市	238,884	東シナ海に面する天然の良港で、軍港と造船所で発展してきた。観光資源は九十九島、ハウステンボスなど。
平戸市	23,905	江戸時代のオランダとの通商の窓口として栄えた。未だに当時の面影が市内各所に残っている。平戸牛、平戸カステラなど、平戸でなければ食べられない食文化が残る。
対馬市	40,572	日本と大陸を結ぶ海の大要衝。13世紀末の元寇により壊滅的被害を受ける。釜山との間にはフェリーが毎日就航し、片道7000円、2時間くらいである。県立資料館に多くの歴史的資料がある。
壱岐市	33,214	博多から対馬へ行く途中の島。元寇では対馬同様壊滅した。多くの神社仏閣があり、往時の繁栄が偲ばれる。
五島市	約5万人	東シナ海に浮かぶ長崎県の島。福江市を中心に下五島地区1市5町が本年8月1日に合併して誕生した。和寇の文化が残っている。

### 3. 対象都市の人口規模によるグループ分け

人口が100万人を超えている札幌市、北九州市、福岡市はいずれも都市自体が観光の対象である。札幌市は言うまでもなく北海道の都であり、夏期の冷涼な気候と冬季の雪が観光の目的になるほか、紅葉、温泉、飲食、近隣の小樽など多くの観光客を通年的に引きつけている。北九州市は旧小倉市を中心に多くの伝統行事があり、また、歴史的文学碑など観光資源も豊富である。更に、現在工事中の北九州空港が完成すると、都心から30分で空港に行けるようになり、しかも海上空港であるので離着陸時間帯の弾力化が期待できる。ただ、近くに福岡市があり、競合分野は福岡に取られる危険性があるので、その差別化をいかに図るかが課題となる。福岡市は福岡空港、釜山へのフェリー、新幹線と交通の便に恵まれており、天神などの都市機能も充実している。また、博多どんたくなどの伝統行事も多く、多数の観光客が訪れている。

以上の通り、100万都市は交通施設が整備されており、観光資源の蓄積も多く、ショッピングセンター、ホテル等の都市機能も充実しているので、適切な旅行商品の開発と宣伝さえ間違わなければ問題は無い。しかし、オリンピック開催の札幌市と、アジアからの航空路が集中する福岡市は知名度の点で何の問題もないが、北九州市はそうでないので、これを除いた2都市を第1グループとする。

人口規模が概ね25万人程度以上の都市は、函館市、青森市、秋田市、新潟市、富山市、金沢市、福井市、下関市、佐世保市である。函館市、下関市、佐世保市以外は県庁所在都市である。これらの

都市はいずれ天然の良港か堀込み港湾を持ち、歴史に恵まれている。しかし、札幌や福岡と異なり、チャンスがあればいつでも行ってみたいということではないと考えられる。それは北九州市についても言えないだろうか。ここでその事実を証明することはできないが、北九州を含むこれらの都市は、もし行くとしてもその理由を考えてから出かけることとなるのである。北九州は合併都市であり、小倉だと思えば、小倉北区と小倉南区の合計人口が約50万人であるので新潟並みである。このように考えると北九州市は札幌市や福岡市とは違うと考えるべきであろう。次に、これらの都市へ行こうとするとき、人は何を考えるであろうか。もちろん都市毎に異なることは当然である。つまり、人口が25万人から50万人くらいの都市は、都市であることに加えて、何らかの目的を明確にすることが必要となってくる。表1から読み取ってみると、歴史を売るものが函館市と金沢市、交通と飲食で売るのが新潟市、下関市、北九州市、それ以外が青森市、秋田市、富山市、福井市、佐世保市である。これらの都市にもそれぞれお祭り、温泉、テーマパークなどがあるが、通年的に観光客を集めようとするより、何らかの工夫をしなければならぬであろう。これが第2グループの宿命である。以上により、北九州市を含むこれら諸都市をを第2グループとする。

その次のグループは人口7/8万人程度から25万人程度までの都市である。これらは、小樽市、酒田市、鶴岡市、上越市、高岡市、小松市、舞鶴市、鳥取市、米子市、松江市、出雲市、唐津市である。これらは母都市依存型の小樽市、小松市、唐津市が浮かび上がる。もちろん、小樽には小樽の歴史が、小松には空港が、唐津にはおくんちや虹ノ松原があるが、基本的には札幌、金沢、博多にそれぞれ依存している。次に、富山市をこのグループにいれてみると、二子タイプになっている都市が、酒田・鶴岡、上越（直江津・高田）、富山・高岡、米子・松江が浮かび上がり、孤立型が舞鶴、鳥取、出雲、唐津である。母都市依存型や二子タイプはそれなり強い競争力を持つが、孤立型は出雲をのぞいて、魅力を増進する必要があるであろう。富山を含むこれらを第3グループとする。

以上の他に稚内市、留萌市、佐渡市、輪島市、七尾市、敦賀市、豊岡市、境港市、安来市、浜田市、益田市、萩市、平戸市、対馬市、壱岐市、五島市がある。このうち境港市と安来市は米子・松江都市圏と考えられるので他の都市とは区別する。つまり第3グループに入れることにする。残った都市が第4グループとなる。第4グループは相当な個性を必要とされそうである。

#### 4. グループ別観光振興方策の考察

インターネット上で41都市の検索を行った結果、次のようなことが判明した。

- ・すべての都市が索引に「観光」またはそれに類似した項目を設けている。
- ・全ての都市が宿泊、食事の案内をのせているが、歴史的背景を分かりやすく紹介しているところは半数程度しかない。年表にしている都市もあるが、これでは分かりにくい。
- ・外国語での案内をみると、英語の案内があるのは41市のうち24市、朝鮮語9市、中国語11市、ロシア語4市、その他少数の都市でドイツ語、フランス語、ポルトガル語があり、益田市はこれらに加えてスペイン語、ベトナム語、インドネシア語、フィリピン語、タイ語の頁を設けている。つまり、半数近い都市でのホームページは未だ海外に目が向いていないこととなる。観光の項目の中に突然英語の頁を作っている都市もあるが、これでは意味がない。
- ・動画を導入している都市が見受けられ、安来市のようにそれなりの効果を発揮している例もあるが、多くは図の引用がしにくくなるだけであり、宣伝効果を減少させている。

次に、グループ別の観光振興方策について考察する。

##### (1) 第1グループ

札幌市と福岡市は我が国を代表する北と西の都であり、北海道、九州においてもそれぞれ強力な中枢都市となっている。従って、この両都市の使命は単に自都市の発展を考えるのではなく、圏域全体の牽引車となると共に、国を代表する性格を有することである。従って、札幌市または福岡市へ来た外国人観光客には広く日本を見てもらうことが重要であり、周辺観光地と回遊コースを組む、全国的な情報にリンクさせる、などを検討しなければならない。それが結果として両都市の入込み客を増加させることになる。

##### (2) 第2グループ

北九州市を含む第2グループは第1グループほどの中枢性はない。北九州市といえどもその知名度はオリンピックを開催した札幌やアジアからの直行便が来る福岡よりは相当低い。つまり、第1グループが黙っていても海外からの集客が期待できるのに対して、第2グループは基本的にはドメスティックである。従って、国内的には独自性を発揮すればよいし、国際的には第1グループや東京、大阪と回遊コースを組む必要がある。いずれも地域の中核都市であるので、地域の先導的役割も求められる。



### (3) 第3グループ

人口規模が25万人程度より少ないこれらの都市は、その地域にあっては中心都市ではあるが、当然のことながら全国的知名度は都市によって異なる。例えば、小樽市と出雲市比較的好く知られており、日本人であれば、真偽のほどはとにかくとして、何となくイメージをもっており、機会さえあればいつでも行ってみようと思っているが、同じくらい知名度のある富山市、舞鶴市、松江市は、町のイメージが明確でなく、訪ねる前に一瞬とまどいを生じることになる。酒田市、鶴岡市、上越市、高岡市、小松市、鳥取市、米子市、唐津市になると、必ずしも知名度が高くはなく、誰かに言われれば行ってみようかということであろう。それだけに、まずは国内向きのメニュー開発が必要とされるであろう。富山市は人口規模が大きく第2グループにも属するので、地域の先導的役割を担う。

### (4) 第4グループ

このグループの都市は人口規模こそ小さいが特徴を持っている都市がある。例えば最北端の稚内市、金山のあった佐渡市、明治維新で名をはせた萩市、韓国をのぞむ対馬市、鎖国以前の貿易窓口であった平戸市などである。これらの町はそれぞれの歴史を活かして宣伝することが必要であろうし、それ以外の都市である、留萌市、輪島市、七尾市、敦賀市、豊岡市、浜田市、益田市、壱岐市、五島市も温泉、海洋、歴史などを最大限活かして集客をする必要がある。これらの町にとって特に大切なことは、一度来たお客をもう一度来させることであろうと思われる。

## 5. 結論

日本海沿岸諸都市の分析をしてきたが、表1から、日本海沿岸であるからこそできることは次の通りであると考えられる。

- ・ロシア、中国、朝鮮半島への渡航拠点。ただし、成田や関空にどれだけ対抗できるかは不明。
- ・日本海に沈む夕日の景観。
- ・日本海からの海産物。
- ・北回り船時代に築かれた歴史的文化と料理。
- ・渤海国、高句麗等との交流の歴史。
- ・冬季の雪と日本海が織りなす自然の非日常性。
- ・日本海そのものの活用。

問題はこれらの特徴がホームページに必ずしも十分表現されておらず、東京の感覚でホームページが作られているような印象を受けた。今後においては、外国語表記を増やすことはもちろん、太平洋側諸都市のホームページや観光政策を十分分析し、日本海沿岸らしいものを作り出すとともに、第1、第2グループのすべて、および第3、第4グループの都市の過半は環日本海地域を意識して、国際交流を念頭に置くことが必要であると考えられる。

## Tourism Development Policy for the Cities Facing Japan Sea

Professor, Tokyo Jogakkan University

Hirohide Konami (Ph.D.)

Japan Sea has the area of 1.3 million square kilometers. The distance between Wakkanai City at north hedge and Goto City at west hedge is about 2000 kilometers. There are about 60 cities facing Japan Sea and the average distance between adjacent cities is about 33 kilometers. This is quite different from the situation in Tokaido Area where the cities are three times densely located and united each other like a belt.

Well known 41 cities among these 60 cities were selected for this study and divided into four groups. The first group is Sapporo and Fukuoka. The second is those cities with the population of from a quarter million to a half million except Kitakyushu City with the population of one million. The third is those with from several million to a quarter million. The fourth is the cities with the less population.

The study concluded that it is necessary for this area to promote the development of multi-language homepages and to make the propaganda of attractive points of the area such as the gates towards the continent, beautiful sunset, delicious food from the sea, piled up histories carried by the sea transportation including the interchange with Korean Peninsular and Bokkai, enjoyment in snowy season, Japan Sea itself, and so on.